TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

生きることを考える　サタンの落とし穴

詩篇 10 章

2022 年 5 月 14 日&15 日

ジェシー　セザリオ牧師

皆さん、こんにちは。
オンラインで礼拝に参加してくださっている皆さん、TBC 三郷、TBC 西東京、鳥取ワーシップサイト、TBC ハブ、関東プレインズ・バプテスト教会、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん。
今日、イエス・キリストの祝福が皆さんの上にありますように。

TBC メンバーの皆さん、教会予算の承認に関する資料およびメールを受け取っていらっしゃるかと思います。5/28-29 が投票日になります。もし、その週末に教会に来ない、またはオンライン礼拝に参加するという場合、事前に eBallot を使って、今日からでも投票が可能ですので、期日前投票をお願い致します。
1)教会のメンバーであれば、TBC からこのようなメールが届いているかと思います。もし受け取っていらっしゃらなければ、教会オフィスに申し出て下さい。
2)メールを開いたら、「期日前投票をする」をクリックして下さい。
3)個人の情報を記入し 4 項目に答え、クリックして提出して下さい。
それで全て完了です。
決定事項が承認されるためには、メンバーの皆さんの十分な投票が必要です。
投票をお願いします。

まずは、お祈りしましょう。

導入
詩篇 8 篇でダビデが神様に問いかけた大きな質問を思い出して下さい。「人とは何者なのでしょう。」
そこでは神様がとても近くに感じられました。
しかし、**詩篇10篇**
[1]主よ、なぜあなたは遠く立ち／苦難の時に身を隠されるのですか。
ここでは神様が遠くに感じられます。
神様が遠くにおられる時、私たちは困難に直面します。詩篇 10 篇では、苦難は、サタンのような邪悪な人々の行いによってもたらされます。
それだけでなく、「trouble（苦難）」という言葉の語源はヘブライ語の「tsarah」であり、これは「逆境や困難」という意味だけでなく、「敵、反対する相手」という意味も含みます。聖書における大いなる敵はサタンです。
サタンは頭の中の概念にすぎないのでしょうか。多くの人はそう信じているでしょう。サタンは実際には存在せず、作り話にしか登場しないと。しかし、そこには問題があります。
サタンはヘビのように身を隠し、ずる賢いのです。言い換えるならば、サタンは巧妙で、賢く、利口なのです。あなたの視界の真下、死角に身を隠すため、人生の苦難に直面した時、それがサタンの仕業だとは気づかないのです。
サタンは概念だと考える人にとって「逆境」は、神様とその人々の敵となる「サタン」ではありません。一つの邪悪な概念にすぎないのです。邪悪な概念にすぎないと考えるならば、神様を信じる意味がなくなります。神様は存在せず「善」の概念にすぎなくなるのです。
「善」は創造も、愛することも、判断することも、私たちの罪を背負うことも、私たちを救うことも、サタンをつぶすこともありません。
しかし、神様はイエス・キリストを通してこれら全てのことをなさいます。神様は私たちへの愛から、イエスを私たちの元へ送り、そしてイエスは亡くなり、生き返られました。それによって、私たちは神様を知ることができ、神様を信頼し裁かれることから解放されたのです。
今日のメッセージは、「サタンの落とし穴」というものです。落とし穴にはいくつかの意味がありますが、私はその中の2つの意味を取り上げます。
1つ目は、サタンの仕掛けた罠。もう1つは、遥か彼方にある、サタンのために用意された落とし穴。
パウロは**ローマの信徒への手紙 16:20** [20]平和の神が、サタンをあなたがたの足元で速やかに打ち砕かれるでしょう。私たちの主イエスの恵みが、あなたがたと共にありますように。
「速やかに」とは、まだ起こっていません。サタンは今でも存在しています。
では、サタンは敗退したのでしょうか。サタンは抑えつけられたけれど、打ち砕かれてはいません。今日でもまだ活発に動き回っています。自分の周りには敵がいて、その敵と闘っている霊の働きを信じないならば、聖書が説く、敵を拒む必要性を感じないでしょう。さらに、救い主の必要性も感じないでしょう。
詩篇 10 篇で、作者は神様があまりに遠くにおられ、逆境が訪れた時に、そこにはおられないのではないかと、心配しています。このように感じた時、私たちは最も攻撃を受けやすくなるのです。サタンの声が聞こえる、正しい判断を下す声が聞こえなくなるのです。
箴言 18:1　人から離れ去る者は欲望を求め／どのような考えにも反対する。
サタンはあなたが一人で餌食になりやすいところを狙って、あなたを攻撃してきます。サタンはあなたの心の渇望している部分を狙ってきます。
神様は遠くにおられ、自分の信仰は本物ではなく、教会も自分のことなど気に留めていないと感じる時、サタンはあなたの心を欺き、イエス・キリストにある生き方を抑圧し、それは全て真実ではない嘘だ、と説きます。
サタンはヨハネの黙示録 12:9 に「全人類を惑わす者」と記されています。特に孤独で弱々しく感じている時に、サタンは誘惑してきます。
サタンがイエスを誘惑したときと同じです。イエスが荒野で一人弱っている時でした。
パウロは夫婦間の性的な結び付きの意味についても説いています。夫婦の間に距離が生まれると、サタンが簡単に誘惑し攻撃を仕掛けてくるからです。
サタンはあなたを罪の道に導くために、あなたの孤独を狙ってくるのです。
寂しく孤独で怖い、誘惑にかられると感じたことはありませんか？
私たちは、聖書を読み、神様との静かな交わりを持つ時間、家族と祈る時間、イエス・キリストを信じる教会での交わりの時間を大切にしなければなりません。
お互い集まり交わりを持つことは、サタンから身を守ることになります。あなたは信仰が失われつつあり、人も神様も自分のことなど気にしていないと感じることがあるかもしれません。これは、サタンの欺きなのだということに気づいて下さい。だから、教会には是非、足を運んで下さい。
サタンは無神論者ではありません。サタンは自分の神学を持っています。サタンは聖書の言葉もよく知っていますし、あなたの罪

が神様との距離を生むことも知っています。サタンは聖書の言葉を巧みに使って、あなたを攻撃してきます。
サタンは荒野で、暗誦した聖書の言葉を引用して、イエスを攻撃しようとします。
誰かがあなたに聖書の言葉を伝える時、どうしたら、それが神様からなのか、サタンからなのか見分けられるのでしょう。どちらからかわからず、混乱したことがありませんか。
見分け方をお教えします。もしも、神様からの言葉であれば、あなたの心に訴え、励まし、慰め、あなたを神聖な方向へと導き、あなたの信仰を強くしてくれることでしょう。しかし、サタンの言葉であれば、あなたを貶め、自信を失わせ、あなたを汚し、あなたの信仰を抑圧することでしょう。サタンは、神様を信じる人々を強く妨害し、もはや航海することができない船のように、あなたの信仰を、神様の言葉を利用して難破させようとするのです。
サタンを恐れることはありません。また、サタンに騙されないようにして下さい。サタンがどのように私たちに近づいているのかを認識して下さい。
サタンは神様がいらっしゃることを理解していますが、無視しているのです。
要するに、サタンは実践的な無神論者なのです。サタンは神様の存在を知っていますが、神様は無力だと信じ込み、まるで神様がいないかのように振るまい、ますます罪へと導くのです。
神様には力がない、とサタンはあなたに思わせることがサタンのやり方なのです。
あなたの神様を信じようとする思い、あなたのクリスチャンとしての信仰を打ち砕き難破させ、死へと追い込もうとするのです。

実践的な無神論者のサイン

箴言 31 章に描かれる素晴らしい妻のイメージのように、詩篇 10 篇には実践的な無神論者のイメージが描写されています。しかし、箴言 31 章にあるような、全てを叶えた妻などいないと思います。
詩篇 10 篇はサタンが体現する、最も悪い状態です。その内容を見ていきましょう。

詩篇 10:2-11

実践的な無神論者とは一体どのような存在なのでしょうか。

2-4 節 人々の前で傲慢に見せかける

2 悪しき者は高ぶり／苦しむ人を追い回している。／彼らが、自らの謀に陥りますように。 3 悪しき者は自らの野望を誇り／貪欲な者は主をたたえながらも侮っている。 4 悪しき者は鼻高々で神を尋ね求めず／「神などいない」と／あらゆる謀をたくらむ。

自分と他者を比較して優越感に浸る傲慢さが描かれています。

5節 ずるい人が人生において先へ行く

5 その道は常に栄え／あなたの裁きは彼からは高く離れてある。／彼は敵対する者すべてを吹き倒す。

いつも自分の利益追求の為、不公平に物事を推し進め、人よりも先をいく姿を描いています。

6 節 人々に攻撃されようと気にならない

6 彼は心の中で言う。／「私は代々に揺らぐことなく／災いに遭うはずがない」と。

自分の欲しいものは何が何でも手に入れようとする姿を描いています。

7 節 悪意に満ちた言葉しか口から出てこない

7 彼の口は呪い、欺き、暴虐に満ち／その舌からは害毒と悪事。

彼らは人を困難に落としめることで自分の身を守ろうとします。人を勇気づけて高めるのではなく、攻撃的な言葉を浴びせます。

8-10 節 弱者を利用する

8 村外れで待ち伏せし／物陰で無実の人を殺す。／彼は不幸な人に目をつけ 9 茂みに潜む獅子のように物陰で待ち伏せる。／苦しむ人を捕らえるために待ち伏せる。／苦しむ人を網にかけて捕らえ、引いて行く。 10 彼は打ち砕いては身をかがめる。／その暴力で不幸な人たちは倒れる。

実践的な無神論者は人を助けようと手を差し伸べることはなく、自分の利益のために利用しようとします。

11 節 神様の威厳と力を信じていない

11 彼は心の中で言う。／「神は忘れているのだ。／顔を隠し、永遠に見るまい」と。

実践的な無神論者は神様の存在に気づいているけれども、全く無視しようとするのです。

サタンの落とし穴

サタンは人の心をコントロールできるようになると、その人を罠に落とすことが可能となります。**ヨハネによる福音書 13:2** のユダの中に見ることができます；すでに悪魔は、シモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていた。
また、**マタイによる福音書 16:23** でペトロにもみられます；イエスは振り向いてペトロに言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは私の邪魔をする者だ。神のことを思わず、人のことを思っている。」
「思い」の英語は mind ですが、mind はもともと phroneo= 心の周りの部分、を意味しています。
使徒言行録 5:3 すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金の一部を取っておいたのか。
サタンは人の心の中に入り込み欺こうとします。人の心を支配しようとするのです。人の心が妥協してしまえば、その人の行いも妥協することになります。

クリスチャンの落とし穴

サタンはクリスチャンに影響を及ぼすことはない、という人がいますが、それは正しくありません。また、聖書にもそのようには書かれていません。

大切なポイントは、クリスチャンもサタンに欺かれ、攻撃されることがあるけれど、イエス・キリストへの信仰によって、サタンに打ち勝つことができるのです。

ヤコブの手紙 1:14-16 14 人はそれぞれ、自分の欲望に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。 15 そして、欲望がはらんで罪を産み、罪が熟して死を生みます。
16 私の愛するきょうだいたち、思い違いをしてはなりません。

ここでヤコブはクリスチャンたちに訴えています。サタンは、イエス・キリストへの信仰を思い違えたクリスチャンたちを抑圧し、彼らの信仰を断とうと、絶えず試みているのです。
マタイによる福音書 24:12 不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。
ここにある「不法」とはサタンのことであり、サタンは多くのクリスチャンの愛を冷ますのです。
マタイによる福音書 16 章でペテロがイエスこそが生ける神の御子キリストであると信じた直後、イエスは振り向いてペトロに言われた。**23 節**「サタン、引き下がれ。あなたは私の邪魔をする者だ。神のことを思わず、人のことを思っている。」
ペテロを含む誰もが、ペテロがサタンの罠にはまっていると気づいていないのです。
クリスチャンの皆さん、目に見えないもの、信じられないものに対して闘うことはできません。なぜならば、サタンの策略に立ち向かうことも、罠にはまって操作されていると認識することもできないからです。
私はこれをよく、クリスチャンの生活の中に垣間見ることがあります。神様を信じ、霊的に成長し、神様や TBC に対する愛でいっぱいで、聖書を読んだり、スモール・グループに参加することが大好きになっていきます。しかし、その過程で、次第に神様に対する愛が冷めていってしまうことがあるのです。心の中に何か変化が起こり、かつてイエスによってできたこともできなくなり、人を赦すことができなくなり、恨みを抱くことになるのです。それがクリスチャンとしてあるべき姿ではないと知りながらも。

落とし穴の例：心に抱いた恨み

考えてみてください。聖書は個人的な恨みを持つべきでないと教えています。でも人は恨みを持つ権利があると考え、恨みを持ちます。

「赦し」の欠如は非常に深刻です。**マタイ 18 章**で複数のクリスチャンが誰かに対して苦い思いを抱くなら、天国においても同じく苦い思いを抱くことになる、とあります。
恨みは神からくるものではなく、サタンの罠だということに気づいてください。不当な恨みは、相手よりも恨んでいる本人にとって、霊的にはるかに悪いことなのです。もしあなたが相手を赦せないなら、相手のいる場所には行かないようにしたり、もしくは何もなかったように交流したり、前に進むことができないならば、それは神からくるものではありません。

あるクリスチャンの恨みについて

世界中で話をする機会に恵まれ、国際的なミニストリーを率いるとあるクリスチャン作家に関する話を、私は最近聞きました。彼が心の中に抱いた恨みは、彼のキャリアに大きな影響を及ぼしたのです。
彼には何年もの間、彼をしっかりサポートしてくれたクリスチャンの父親的存在がいました。しかし、とある時期からこの父親的存在は、彼の行いを認めなくなり、公の場で彼を攻撃するようになったのです。それがあまりにも激しくなった為、彼の周りの人々が彼のことを心配し始めました。彼は大丈夫だと、気丈に振る舞っていましたが、内心はそうではありませんでした。自分の心の中に湧き起こる感情を否定しようとしましたが、その感情が消えることはなく、彼はその感情を抱いていることを否定しようとしました。
すると、彼の神様に対する愛は冷えていったのでした。彼は説教を行い、聖書の言葉を説き、ミニストリーを続けていました。しかし、サタンの罠に落ちた彼の信仰はますます抑圧されていったのです。
そこで彼は神様に、自分はこの人を赦す必要があるのかを尋ねたのです。神様に祈りの中で「何か間違っていることがあるのでしょうか？」と尋ねることは重要です。すると神様ははっきりと、「ある」とお答えになられたので、神様のその明白な答えに彼は驚きました。
その後、彼はその人を赦しました。しかし、数週間後にその人物に会った時、自分の心を占める否定的な感情に気づくのです。そこで再び、彼のことを赦し悔い改めました。涙が流れ、全ては終わったと思いました。
数週間後にこの人物と再度会った時、彼はこの人物が恵みに溢れていることを目の当たりにし、不愉快な気持ちになります。周りの人々にさんざん酷いことをしているにも関わらず、恵みに満ち溢れているなんて不公平だと感じたのです。彼の怒りは彼の霊的な状態をさらに悪くし、絶えずこの人物のことが頭から離れず、彼を罪の道へと落としめたのです。
何週間にもわたって、彼はこの人物に対して祈り、物事は改善に向かいました。自分がどれほどこの人物を愛しているのかがわかりました。しかし、何かがまだおかしかったのです。
そこで彼は、その人物のところへ行き謝罪します。その人物は何のことだかさっぱりわかりませんでした。しかし、それがきっかけとなり、よりオープンにお互いが感じていることを話し合うようになったのでした。
この話の最も大切な部分は彼の言葉から読みとれます。
私は、この人物を以前から知っていて、彼のことが大好きで尊敬しており、彼とは最高の関係を築いていました。しかし、その後、彼の欠点が見え始め、もはや彼のことが好きではなくなりました。しかし、今では、赦しの恵みによって、彼の欠点を知りながらも以前と同じように彼を愛することができるようになったのです。
これを機に神様は、彼のミニストリーを益々、恵み豊かなものとし、彼の人生は豊かに変わっていったのです。これは福音だと言えるでしょう。このようにして、自分を自分自身のヘビの穴から脱出させるのです。福音を生きるのです。
聖書の言葉を読んでみましょう。

ローマの信徒への手紙 5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。

ペトロの手紙一 4:8 何よりもまず、互いに心から愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。

サタンは教会の中での交わりを嫌います。お互いを愛し、赦し、助け合うことを嫌います。サタンはあなたが信じている真実を利用して、TBC の中で良くも悪くもお互いを落としめようとします。人を傲慢にさせ、お互いを嫌い、嘲笑い、軽蔑し、ゴシップや悪口や相手を落としめる冗談を言うように誘導します。
そこで、あなたが「そんなことは日常茶飯事だから、私も神様も慣れっこだ。」と感じたとします。それは何を意味するか分かりますか。それは、心の中にサタンを住まわせ、神様を遠くに置くことです。

振り返ってみてください：あなたは自分の罪に慣れっこになっていませんか。あなたは、実践的な無神論者になっていませんか。神様の存在は知っているけれど、その存在を無視した生活をしていませんか。

もしそうであるならば、悔い改めて下さい。

悔い改めることの大切さ

サタンの攻撃は真実に対する闘いです。キリストへの欺きに対する闘いでもあります。福音に基づく信仰に対する闘いであり、悔い改めることで人を赦すことができるようになるのです。イエス・キリストのように生きたならば、それは福音の勝利を意味し、神様が聖霊の働きによりイエス・キリストの生き方をあなたに与えようとしているのです。悔い改めの生き方をみてみましょう。

エフェソの信徒への手紙 4:22-24, 27 22 ですから、以前のような生き方をしていた古い人、すなわち、情欲に惑わされ堕落している人を脱ぎ捨て、23 心の霊において新たにされ、24 真理に基づく義と清さの内に、神にかたどって造られた新しい人を着なさい。27 また、悪魔に隙を与えてはなりません。

「神様、私の全てを変えて下さい。神様の目から見て、よくないと思われる部分を全て変えて下さい。サタンに隙を与えないで下さい。」というのが本当の悔い改めだと言えるでしょう。
福音とは、あなたが必要とする超自然的変化をもたらし、それ以前の邪悪な自分とは切り離されることを意味するのです。
全てのクリスチャンへ、1つ明白なことがあります。それすべての人がイエス・キリストに従って生きていく必要があるということです。

ヨハネによる福音書 13:34-35 34 あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう。」

赦しのない愛などありません。クリスチャンの人生としての実りは、人を赦すことにあります。あなたはクリスチャンだと言えますか。イエス・キリストに従って生きていると言えますか。イエスの教えに従えますか。
福音は神様の恵みと真実に関するメッセージです。恵みと真実を抜きにして福音はありません。サタンに勝利するにはこの2つが必要となります。

<u>福音の勝利</u>

神様の恵みが勝利へと導く
人は邪悪でありながら、それを楽しんでいます。そんな中へ、神様は一人子であるイエス・キリストを送り、そのイエスは私たちの罪の為に死んでくださいました。これほど恵み深いことはありません。ローマの信徒への手紙 3 章の中で、パウロはこの世の罪について語っています。詩篇 10 篇を用いて、その中に出てくるサタンの描写はまさに和解していないこの世のごく普通の姿を表しています。イエス・キリストを信じることなく、聖霊の働きがなかったならば、私たちはこの世の毒ヘビとなってしまうのです。

ローマの信徒への手紙 3:23-25 23 人は皆、罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっていますが、24 キリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより価なしに義とされるのです。25 神はこのイエスを、真実による、またその血による贖いの座とされました。それは、これまでに犯されてきた罪を見逃して、ご自身の義を示すためでした。

イエス・キリストが罪を償って下さり、その恵みを受けて私たちは赦されたのです。だから、神様の恵みは勝利につながるのです。*私たちの戦いは、人間に対するものではなく、支配、権威、闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊に対するものだからです。*（エフェソの信徒への手紙 6:12）
私たちがどこで格闘しているかわかりますか？神への従順とともに私たちの心の中で戦っているのです。赦すべき人が頭に浮かんでいますか？十字架によって赦しの欠如は明らかで目障りな問題です。成熟したクリスチャンだろうが新しいクリスチャンだろうが、サタンは私たちが赦さないよう、だますことができます。あなたが赦されているならば神がそうしてくださったようにあなたも互いを赦し合うべきです。これが福音による信仰の果実です。

真実が勝利へと導く

見落とすべきではない信仰の観点が他にもあります；私たちの信仰がどのようにしてサタンを打ち負かすのか。すなわち Christus Victor です。
コロサイの信徒への手紙 2 章で、イエスが裁きの律法を取り払ってくださったため、私たちの罪が赦された、そしてそれがサタンを武装解除させた、とあります。
力がないのは神様ではなくサタンであることを忘れてはいけません。神様は最も力強いのです。サタンは私たちを欺き、イエス・キリストにない人々のことを攻め立てるかもしれませんが、サタン自身が永遠のどん底に突き落とされる存在なのです。そのようにして、私たち、神様の勝利は導かれるのです。

真実の中にある力

どのようにしたら、このサタンの砦に打ち勝つことができるのでしょうか。真実が私たちを自由にしてくれるのです。イエスが真理によって私たちを聖別してくださることは知っていても、その聖句の詳細を知っていますか？
ヨハネによる福音書 17:15-17 15 私がお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。16 私が世から出た者でないように、彼らも世から出た者ではありません。17 真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの言葉は真理です。
真実はこの世において、サタンから身を守るための手段なのです。真実について**ヘブライ人への手紙 2:14** でこのように記されています。
そこで、子たちは皆血と肉とを持っているので、イエスもまた同じように、これらのものをお持ちになりました。それは、ご自分の死によって、死の力を持つ者、つまり悪魔を無力にし、
ここを読むと私たちが何も恐れることがないと理解できます。サタンは打ち負かされ、あなたも抑圧から解放され自由の身となったのです。

質問です：何が暗闇を怖いものとするのでしょうか。

暗闇の中にいると、孤独に陥り、何かわからないけれど邪悪なものがいるのではないかと感じてしまいます。実際は、暗闇とは真実がない状態のことです。
詩篇の作者が“主よ、なぜあなたは遠く立ち／苦難の時に身を隠されるのですか。”
と叫んでいます。明かりをつけていれば、真実が見えて何も怖がることはなくなるのです。

これが真実です。イエスは再び言われた。「私は世の光である。私に従う者は闇の中を歩まず、命の光を持つ。」

自分の心の中にある暗闇の穴を見つけて、そこに明かりを灯してあげて下さい。イエスはサタンを押し退け、イエスの聖霊を入れて下さいます。真実を手放さなければ、サタンを追い払うことができるのです。

振り返りましょう：あなたはイエスの言ったこと、福音の力を信じますか。

イエス・キリストにあれば、勝利の明かりを手にすることができるのです。明かりは暗闇の中を照らすので、外の闇がそれに打ち勝つことはありません。悔い改め、信じ、勝利の中に生きましょう。そうすればこの世の神であるサタンに押しつぶされることはありません。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https:/t-b-c.us/sg2022jp

★クラス 401
（伝道方法を学ぼう！）
5 月 15 日（日）13:00～17:00

★クラス 402
（伝道方法を学ぼう！）
5 月 29 日（日）13:00～17:00

オンライン献金
http ://t-b-c.us/give

スモールグループ申込み
http://t-b-c.us/sgsu